

店頭から
「こんにちは」

第 107 回

かぶれなどの原因をしっかりと見極めること
金属アレルギーで歯の問題が浮上

新型コロナウイルス感染症の影響は、さまざまところに現れています。
例えば、マスクや手指の消毒液で、かぶれる方が多くなっているのです。

じっくりと話を聴く日々に

皮膚の問題で、洗剤など、簡単に原因が判明するものは、接触を避ければいいでしょう。

ただ、そうでないものも。

今回は、50歳代の女性の事例です。整形外科へ行ったとき、待合室で隣同士に座った患者さんから、「ここへ行ってみては？」といわれ、やって来ました。

皮膚科へ行って、ステロイドの軟膏をつけていても、一向によくならないとのこと。

そこで、よ〜く観察すると、紅斑が、足の土踏まずの上から足首あたりまで出ていました。かゆみは、ないといいます。

最近、手にも出始めたものの、手首までで、それ以上は進まず、かゆみはやはり、ないとのこと。

皮膚科で訴えても、患部を見ないで、話もほとんど聴いてくれずに、「はい、いつもの軟膏を塗っておきなさい」で、おしまいだったとか。

「今日、ここでは詳しくお話しさせていただきましたが、私の話を

こんなに聴いてくれたことはなかったですね」とのこと。

歯の治療も大切…

ステロイド軟膏を塗っても効かないということは、何か他に原因があるのではと推測しました。

手を見せてもらっているときのことです。結婚指輪の接触している部分が、小指側も中指側も赤くなっているのを発見しました。

そこがかゆいといいます。材質を問うと、金メッキではないとか。

歯の治療についてうかがうと、口を開けて見せてくれました。かなりの金属が使われています。

去年、地元の総合病院で、人間ドックを受けたとき、循環器検査用ホルターの電極で触った部分が真っ赤になって、しばらく治らなかったとのこと。金属製の電極が直接肌に触れたのでしょうか。

どうやら、金属アレルギーの疑いがあるようです。

指輪やホルターなら、外せばすみます。

しかし、口の中の金属は、時間もお金もかかり、外すのは難しい

ものです。

歯科の治療で使っている金属に反応するのか、どうかを、まずテスト。もしも原因になっていると分かれば、別の材質へのとり替えを、1本ずつしていくしかありません。

「そうした治療を、コツコツとしてくれる歯科医院を探すことから始めましょう」とお伝えしました。

原因不明の皮膚炎と歯の治療のための金属は、無縁のものと思いがちです。

しかし、少し前までは何の疑問も持たずに一般的に使われていた治療用の材料が、現在はまったく使われていないという例も。

ぜひ、知っておいていただきたいものです。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「くれぐれも衛生にはご留意をしてください」

